

校長室だより 令和7年度第7号（令和8年1月9日）

明けましておめでとうございます。

冬季休業中を利用して、職員研修を行いました。

12月23日は、研修報告会と自立活動研修会を実施しました。

今年度は、東北聾教育研究大会青森大会が11月に開催され、本校は「早期教育」と「教科教育（小学部）」の2つの分科会で実践発表を行いました。「早期教育」では、「保護者一人一人のニーズに対応した支援とは ～ひよこ教室の実践を通して～」というテーマで本校の保護者支援の実践を発表しました。報告会では本校や他校の発表の概要、助言者からのアドバイスについて職員間で共有する場となりました。「教科教育（小学部）」では、学んだことを生かし、「相手に分かりやすく伝えるための手立てを取り入れた授業実践」について発表しました。報告会では、研究方法や手立てについての成果や課題について共有を図りました。

その他、「特別支援学校教育課程研究協議会」や筑波大学公開講座「聴覚障害 発音・発語指導研修講座」、令和6年度特別支援教育専門研修（独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所）に参加した職員が研修で学んだことを報告し、学校全体での学びにつなげることができました。

自立活動研修会では2つの内容について研修を行いました。

1つ目は、今年度、国の事業で新たに整備することができた補聴援助システム「ロジャーマルチメディアハブとロジャーセレクト」の機器の使い方を研修しました。近年、補聴器・補聴システム等が進展（小型化、高品質化）しています。

子供達の可能性が様々な側面で広がっていますので、こうした機器を効果的に活用するための研修は大切だと感じています。

2つ目は、「発音指導」について、経験を積んだ職員が講師として研修を行いました。発音指導に関する資料の紹介や発音指導を始めるにあたっての教師の心得、知っておくべきこと、発音指導の実践について研修しました。自分が指導している子どもたちを思い浮かべながら真剣に話を聞く様子が見られました。



1月6日には、専門性向上のための研修会として、公益社団法人 東京聴覚障害者総合支援機構 東京聴覚障害者支援事業所 所長の岩山誠 様を講師として招聘し、「社会自立を促すために聾学校での指導に必要なこと」という演題で講演会を行いました。

岩山様は聴覚障がい当事者であり、現在は、就労移行支援、就労定着支援、特定障害児・者相談支援を実施している障害福祉サービス事業の所長としてご活躍されています。

長期就労するために必要な力として、自発的に周囲と関わる力を身に付けることを挙げられました。聴覚障がいのある人がこの力をつけることの難しさや背景を理解することについてお話されました。周囲に働きかけ、自分にとって働きやすい環境をつくることのできる力をつけるための、実経験や教員や保護者の意識、社会的環境、学校に在る間に指導すべきこと等をお話いただきました。就労先の見学・実習・採用面接で見られた不適切な行動の事例や就職後に見られる課題、学校・家庭で望まれる取組み等を具体的にお話いただき、

学校で現在行っている指導の方向性が間違っていないことを確認するとともに、教師が当たり前や常識と思っていることについても丁寧にその行動の意味付けや理由付けを説明していくことを意識して指導していくことを改めて学ぶことができました。



研修を通して学んだことを学校教育の充実につなげていけるように今年も努めてまいります。